

漆うるしで未来は変えられる

10

電気工事と津軽の馬鹿塗り

NPO法人ワルンクエスト 理事長
柴田幸治

今年の夏も暑かった！ もはやエアコンは快適に暮らすためのものというよりは、命を守るために必須なものとなりました。今年は在宅勤務の広がりや、10万円の特別定額給付金も追い風になってエアコン需要は例年以上に高まり、取り付け業者さん達も大忙しだったようです。

青森県弘前市で電気工事業を営む高橋武敏さんもそのお一人ですが、実は高橋さんは電気工事のお仕事を通じて、漆や伝統工芸で暮らしを豊かにするとてもユニークな取り組みをしています。

弘前市といえば津軽塗つがるぬりが有名です。色漆を何重にも塗り重ね、平滑に研ぎ出して模様を表す技法「研ぎ出し変わり塗り」により生み出される複雑で美しい模様が特徴です。そして津軽塗はひたすら漆を塗る・研ぐを繰り返し、約2カ月間、40以上の工程を経るため、その馬鹿丁寧さ・丈夫さから「津軽の馬鹿塗り」とも呼ばれるほどです。

高橋さんは電気工事のお仕事の中で常々、あることが気になっていました。それはどの



津軽塗プレートを取り付ける高橋さん

部屋の壁にも取り付けられている電気のスィッチコンセントプレートでした。形も色も同じで何ら面白みのないプラスチック製のプレートが、和室にも洋室にも当たり前のように取り付けられていることに疑問を感じたそうです。

これってなんとかできないものか？ そう思った高橋さんが声をかけたのが津軽塗の職人さんでした。津軽塗の技を活かせば無味乾燥なプレートを素敵なインテリアに変えることができるのではないかと、そう考えて津軽塗でプレートを作り始めたのです。

津軽塗スィッチコンセントプレートは赤、黒、青、緑、ピンクなど実にカラフルです。そして技法も唐塗からぬり、七々子塗ななこぬりとバリエーションがあり、色・模様とも好みや部屋の雰囲気に合わせて選ぶことができます。この津軽塗のプレートは地元の新築住宅を中心にとっても好評で、これまでに300軒近いお宅で使われているそうです。津軽塗が地元の人たちにとって馴染み深いものであると同時に、それが地域の誇りとして津軽の人たちに愛されていたことも人気の背景にあるようです。

さらに高橋さんは電気工事という本業を生かし、昨年から津軽塗で仕上げたペンダントライトや壁の間接照明、シェードなど、照明器具へ



津軽塗のペンダントライト

の展開もスタートさせました。東京にショールームを開設し台湾の展示会にも出展するなど、電気との組み合わせで津軽塗の魅力を多くの人に知っていただくよう、楽しんでいただくのと精力的に取り組んでいます。

伝統工芸とは全く関係のなかった高橋さんですが、その思いやアイデアを伝統の技をもった職人さんが受け止め協力してくれたことで、津軽塗は新しい展開を見せ始めています。異業種と伝統の技が見事に合わさって、伝統工芸に新しい価値が生まれ、そして活躍の場が大きく広がっている好事例です。こうしたコラボレーションが次々に立ち上がり、伝統が守られ受け継がれ、そして発展していくことを期待したいと思います。